

かわぎ

vol.
58

CONTENTS

就任挨拶	2
細胞・再生医療センター設立	3
リプロダクションセンター	4
地域周産期母子医療センター	4
小児科病棟	5
初診紹介患者さん用予約センターのご案内	6
休日の診療体制のお知らせ	6
医療連携登録医(メディカルパートナーズ)について	6

東京医科大学病院の理念と基本方針

理 念

人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します。

基本方針

本学の校是である“正義・友愛・奉仕”を実践します。

1. 患者さんと信頼関係を築き、安心して開かれた医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して良質で高度な医療を提供します。
3. 人間性豊かで人類の福祉と幸せの実現に貢献できる医療人を育成します。



撮影：金田博美(東京医科大学病院 看護部)

就任挨拶

糖尿病・代謝・内分泌内科学分野 主任教授（糖尿病・代謝・内分泌内科 診療科長）



すずき りょう
鈴木 亮

略歴

1996年3月 東京大学医学部 卒業
1996年6月 東京大学医学部附属病院 内科
1997年6月 社会保険中央総合病院 内科
1998年4月 東京大学大学院医学系研究科 入学
2002年3月 同上 修了（医学博士）
2004年10月 東京大学 糖尿病・代謝内科 助手
2005年10月 米国ハーバード大学
ジョスリン糖尿病センター 留学
2010年10月 同上より帰国
東京大学 TSBMI 特任助教
2011年4月 東京大学 糖尿病・代謝内科 特任講師
2014年5月 同上 講師
2018年5月 同上 退職
2018年6月 東京医科大学 糖尿病・代謝・内分泌
・リウマチ・膠原病内科学分野 准教授
2019年7月 同上 教授
2020年4月 本学 糖尿病・代謝・内分泌内科学分野
主任教授

この度、令和2年4月1日付をもちまして糖尿病・代謝・内分泌内科学分野主任教授に就任いたしました。

当科は、1型・2型糖尿病をはじめ糖代謝異常全般の精査加療を中心に、脂質異常症や痛風（高尿酸血症）等の代謝疾患、バセドウ病や橋本病その他の甲状腺・副甲状腺疾患、副腎疾患、間脳・下垂体疾患等の内分泌疾患を幅広く対象とする専門診療を行っています。血糖管理に難渋する患者さんの治療の見直しや、糖尿病性ケトアシドーシスなど緊急性の高い病態の対応、糖尿病と診断され早期の多職種による生活指導、1型糖尿病に対するインスリンポンプ導入やカーボカウント指導、妊娠時の緻密な血糖管理に加えて、バセドウ病に対する内服・RI治療・外科的治療の的確な選択、二次性高血圧の内分泌学的精査など、個別の状況を踏まえた最善の治療を提供します。

病状が安定した患者さんは社会背景やQOLを考慮し、ご紹介元の先生への円滑な逆紹介を推進しています。顔の見える地域連携を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

高齢総合医学分野 主任教授（高齢診療科 診療科長）



しみず そういちろう
清水 聡一郎

略歴

2000年3月 本学東京医科大学医学部卒業
2000年4月 東京医科大学大学院医学研究科
（老年病学専攻博士課程）入学
2008年4月 University of California,
San Francisco, postdoctoral fellow
2011年7月 国立精神・神経医療研究センター病院
神経内科 医員
2013年7月 東京医科大学高齢総合医学講座助教
2014年1月 同上 講師
2019年5月 同上 准教授
2020年4月 同上 主任教授

この度、令和2年4月1日付けで高齢総合医学分野の主任教授を拝命致しました。

私は現在まで“全人的医療である老年医学の実践”に努めつつ、羽生春夫先生に師事し最先端の認知症画像研究・診療に携わってまいりました。新規アルツハイマー病治療薬の明るいニュースもあり、認知症診療は今後さらに発展していきます。認知症克服の時代へ向け、認知症疾患医療センターとして、今まで以上に認知症診療に力を入れて参ります。

超高齢化社会を迎える日本の老年医学の役割は、今後も変遷が予想されます。その中での“老年医学”の役割も従来と変わって来ると考えます。先人達の培ってきた“変化を恐れず、常に進化する”当科の気質を継承し、時代のニーズに合わせ、多様な状況、疾患に対応していけるよう常に進化をしていく所存です。そして「高齢診療科があるから、東京医大病院は高齢者を安心して任せられる」と地域の皆様方にご信頼頂けるよう、全身全霊で取り組む所存です。

今後も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

皮膚科学分野 主任教授（皮膚科 診療科長）



はらだ かずとし
原田 和俊

略歴

1994年3月 山梨医科大学医学部卒業
1994年5月 同上 研修医
1996年4月 同上 医員
1997年4月 山梨医科大学大学院生態系入学
癌研究会癌研究所細胞生物部出向
2001年3月 同上 卒業
2001年4月 山梨医科大学皮膚科助手
2002年6月 Department of Dermatology,
Stanford University,
postdoctoral fellow
2005年9月 山梨大学皮膚科助手
2007年2月 同上 講師
2014年1月 本学皮膚科学分野准教授
2020年4月 同上 主任教授

この度、令和2年4月1日付をもちまして、東京医科大学皮膚科学分野主任教授を拝命致しました。

当科では、高齢化社会を迎え、増加が著しい皮膚悪性腫瘍、慢性に経過し、患者さんのQOLを損なう乾癬・掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎をはじめとするアレルギー性皮膚疾患、脱毛症などを専門とし、抗体薬、分子標的薬、手術療法などを駆使しながら、これらの皮膚疾患に対応しております。しかし、皮膚疾患は多様であり、Stevens-Johnson 症候群、重症皮膚感染症、膠原病、さらにアナフィラキシーの原因検索なども当科の診療対象です。私は山梨大学と東京医科大学において common disease から重症皮膚疾患まで、25年間にわたり、幅広く皮膚科学の研鑽を積んで参りました。この経験を生かし、地域の先生方のご要望に、十分に応え得る医療を提供したいと考えております。皮膚に病変がみられるお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご紹介いただきたく存じます。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

細胞・再生医療センター設立

日本の再生医療は、2014年9月に、世界で初めてiPS細胞を用いた移植手術が行われて以来、急速に進歩し、また、様々な分野で臨床応用されつつあります。これまで有効な治療法がなかった疾患に対する、治療への可能性が大きく期待されています。

当センターは、東京医科大学病院における再生医療を、法令遵守の下、安全で迅速に、また、効率的に臨床現場に提供することを目的として設立されました。当センターの施設である、「細胞調製施設」設立に当たっては、多くの方々に並々ならぬご協力をいただきました。この施設は、2020年3月、細胞加工施設として正式に国の承認を得ることができました。

また、当センターの運営は、科と科の垣根を無くし、横断的に病院が丸となって再生医療を推進するため、参加希望のある全ての科あるいは部署で構成する委員会が中心となって行います。

具体的な再生医療の内容は、東京医科大学病院ホームページ、「細胞・再生医療センター」をご覧ください。

<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/saisei/>



センター長
ふくだ しょうじ
福田 尚司



細胞調製施設

リプロダクションセンター

2019年7月から新大学病院に移転し、6階リプロダクションセンターで不妊治療を行っています。受診中の患者様からは、専用のフロアで診察を待つことが出来るため快適になったと好評です。また、リプロダクションセンターで、エコー検査等の診察、人工授精や体外受精などの治療も行え、不妊治療専門の医師が治療を行うことで安心感があるという声も聞かれます。

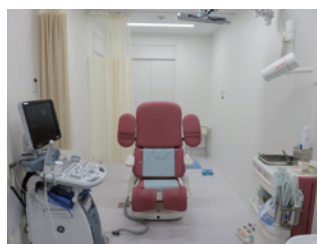
新大学病院移転後は産婦人科以外の診療科とも連携をとりながらチーム医療を行っており、特に合併症のある患者様や精子・卵子凍結など妊孕性温存希望の方も安心して治療を受けていただけるようになりました。また新しい設計により培養室の環境もさらに改善し、妊娠率も上がっています。



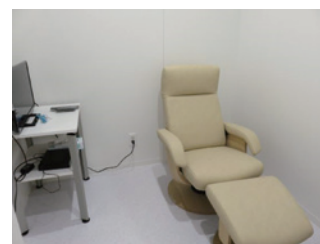
待合室



培養室



内診室



採精室

地域周産期母子医療センター

産科病棟／MFICU (母体・胎児集中治療室)

産科・MFICU病棟は当院の7階に位置し、NICU病棟と隣り合っています。すべての妊産婦様が安心して入院生活を送り、自信をもって育児に向き合えるよう、医師、助産師、NICUスタッフ、薬剤師、ソーシャルワーカーなど様々な職種と連携してサポートしています。MFICUが開設され、緊急時に対応できる充実した環境が整備されています。常に産科病棟と連携し医療ケアの提供を行っています。当院は産科外来と産科・MFICU病棟が一体化となっており、妊娠期から産褥期まで同じスタッフが継続して関わっています。そのため安心して入院生活を送ることができるといいます。ご家族でゆっくりとお過ごし頂けるよう、ご利用しやすい料金にて特別個室も用意しております。

2019年度よりご希望の方には硬膜外無痛分娩（計画分娩）を行っています。また、育児技術の習得をゆっくりと行えるよう、産後ケア入院も開始しました。



特別個室 45,000円(税抜)／日



ティーサービス



出産後のお祝い膳



お食事

NICU (新生児集中治療室) / GCU (新生児回復期治療室)

NICU・GCU では、当院産科病棟に限らず周辺地域からの新生児搬送を受けております。

低出生体重児、黄疸、哺乳障害、低血糖、口唇口蓋裂など様々な状態に対応しますので、出生直後の急性期から出生後数日経過した新生児まで、少しでも気になることがございましたら遠慮なく御相談・御連絡下さい。

NICU は個室化し、GCU はハードカーテンで個室と広い空間の両方を提供しています。児と家族がゆったりとした時間を過ごせるように心がけており、暖色照明を使用することでとても優しい環境となっています。

退院支援にも力を入れて取り組んでいます。児・家族を中心として医師、看護師、臨床心理士、MSW、薬剤師などと、地域の保健師や訪問看護師とのカンファレンスを積極的に行い、多職種の協働を大切にしています。

家族が安心して退院後の育児が出来るように、必要な方には病院で実際に長時間の育児を体験してから退院して頂いています。児がしっかりと家族の一員になることをスタッフ一同目指しています。



NICU



GCU

小児科病棟

小児内科を中心とし、小児に関係したすべての診療科のお子様が入院される病棟です。例えば小児外科、形成外科、耳鼻咽喉科、整形外科、眼科、脳神経外科などで入院された場合も、全身管理は小児内科と協力して行います。医師、看護師だけでなく、小児病棟担当の薬剤師、栄養士、保育士が配置され one team で一人ひとりの患児と家族を支えています。

患児の病状、成長・発達段階に応じて病室を調整しています。付き添いを希望されるご家族には個室や2人床を、学童期のお子様にはプライベートな空間が持てる病室を準備しています。

プレイルームや学習室も完備し、少しでも入院生活が安楽に、また成長の手助けになるようサポートしています。



2人床



学習室



個室



プレイルーム



初診紹介患者さん用予約センターのご案内

初診患者さんから、電話での診療予約をお取り致します。尚、診療科や医師により、患者様からのご予約を承れない場合もございます。また、患者さんの容態の変化があつてはならないため、予約センターではお電話を頂いた日から2週間先までのご予約をお取りします。緊急性のある場合や、2週間より先の予約でも問題ない場合、貴院より医療連携担当（03-5339-3808）にご連絡頂き、受診相談やご予約をお取りください。

電話番号：03-5339-3701（直通）
受付時間：平日 9時から16時
土曜日 9時から12時（第1・3・5土曜日）

休日の診療体制のお知らせ

2020年8月10日（月）、2021年1月11日（月）は休日ではありますが、当院では患者さんの診療が滞ることがないように、平日同様の通常の外来診療を行います。なお、本来休診日であることから、診療報酬点数表上の休日加算が適用されることになります。患者さんの負担金が通常の診療に比べ増える場合がございますので、あらかじめご了承ください。なお、医療機関様からのご予約をいただいている患者さんについては、休日加算は適用いたしません。

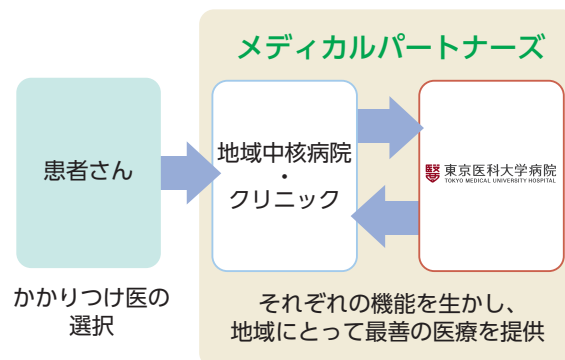
2020年	8月10日（月）	山の日	通常診療
2021年	1月11日（月）	成人の日	

医療連携登録医（メディカルパートナーズ）について

東京医科大学病院では、地域の診療所を対象に医療連携登録制度を実施しています。地域包括ケアシステムの視点に立ち、地域医療をバックアップすると共に、地域の医療機関のパートナーとして、医療機関と地域住民との信頼関係の向上を図ります。

お申し込みについて

総合相談・支援センターへお電話ください。
申込用紙をお送りいたします。
電話：03-5339-3808（直通）



医療連携登録医療機関 MAP をインターネット上に掲載しております

<http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/>



02 総合相談・支援センター

医療連携登録制度
（メディカルパートナーズ）

